明治四十三年四月二十二日（金曜日）（日刊）月曜及祭日の翌日休刊　第三百八十九號　（一）

京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可らず

明治四十三年　紀元二千五百七十年
本紙定價　▲一枚金二錢▲一ヶ月前金丹五錢▲三ヶ月前金壹圓▲六ヶ月前金貳圓▲郵税一ヶ月十二錢
月曜日及び大祭日の翌日は休刊（日刊）
廣告料金　▲五號活字十七字詰一行一圓金五十錢▲雜報欄特別廣告五號活字十七字詰一行金七十五錢
發行兼編輯人　高木久馬太
印刷人　松久神一郎
京城西署西小門通（電話六六二）
發行所　京城新報社

内外應酬　一記者

▲金融と感情　彼等は手形組合に依て彼等が信用の最少限を以て第三者に對して保證さるゝ代りに、彼等が口と腹の働きは全部拒否さるゝに至つたのである、彼等が金を要するに當り手形組合の保證なき手形は先づ銀行が其の割引を難んずる、私人に至りては融通を拒むにあらざれば法外の條件を持ち出すのである、之れは彼等が信用の殆んど全部を食ひ潰して居る即ち手形組合は彼等が負ひ得る債務の最大限に對して保證を與へた、其の上に金を貸すは甚だ危險なりとするのである、然るに斯の如きは彼等に對して甚だ氣の毒に感ずる、彼等は實際口と腹の働きを除きし又夫程の資金を要するのである、而かも手形組合の査定額以上の融通は甚だ困難であるからである、手形組合の事業としては現在の狀態を以て能事を盡せりとするかも知れぬ又理論を以て事物の全部を完ふすることが出來るならば手形組合の信ずる處に對して保證を與ふるのである、併しながら他が組合は査定額以上の信用を彼等に置くを妨ぐるものにあらずと云ひ得る、併しながら社會は其の理屈一點張を承知しない、於此前述の如く組合員が困難せしむるのである、去り乍ら若し該組合が一の信用調査の機關として存在するならば現に角、手形組合の性質上査定額以內の保證に對しては組合が最後迄責任を負はねばならぬ、因て吾輩は査定額を信用の最小限に置くことを不可とするのでは無い、唯人の感情に對する遠慮なしには數字を土臺とする金融の事すら決して圓滑に行はるゝものに非らずと云はんと欲するのである、況して組合員以外の者に對する日本人の信用は、其の組合に加入せる故に根本より破壊されんとする狀が見へ、之れが又感情を土臺とせる「物の道理」なるに於てをやだ、

敍上は金融と感情の關係を研究する一材料として揭げたのであるが、要之感情は金融に對して大なる勢力を有するものであると斷じたい。（此稿完）

本年の麥作現況

米作に亞ぎて日本主要農作物の位置にある麥類の作柄を概觀するに本年は舊冬播種の前後に於て降雨なく頗る乾燥に失したる地方なきに非ざれど斯る部面すら程なく數回の甘雨ありしより發育の良好を告げ始めたり以上は關東より九州に亙れる太平洋沿岸方面の狀態なるが東北地方並に日本沿岸の各地に在りては播種の當初より氣候適順なるを得たれば生育頗る佳良なり斯くて先月に入り温度の上昇充分ならざる爲め草丈の伸張も亦自から平年に比して聊か劣れるが如き感なしとせざるは遺憾なれど冬季の亙寒は勢ひ分蘖をして旺盛を呈せしめたれば其莖數は九州の一部を除く外、各地概して平年の上に居れり尙過般來兎角天候の陰鬱勝なる爲め四國の麥作は所によりて赤澁病の襲擊を受け始めたる模樣あれど未だ猖獗に至らざるは幸ひなり要するに本年麥作の現況は平年の作柄に比して勝るも劣る所なしと謂つて可ならん併し其豐凶は發育の最中なる今日以後に在り殊に黃熟の期節に於ける天候に支配さるゝこと頗る大なれば此上は只管天候の進順を希ふの外なしと

地方電報

▲平壤通信

▲京義線改良實施　京義鐵道改良工事は愈來月中旬頃より着手する筈にて既に大体の準備を了したる趣なるが之が工事の重なる箇處に就ては平壤以南にては土城汗浦間同以北に就ては東林良策間の二箇處なるが前者は施工上の都合により之を三區に別ち各工區には一名宛の主任者技手及之が監督として御酒本技師を置く事とし又後者は之を二區に別ち同樣各區に一名の技手と之が監督として氷扉技師を置く事とし既に何れも兩箇處共殆ど全部の測量を了したる趣なるが右の二箇處の外に於ける橋梁其他の工事に就ては既設の各線區に於て夫々擔任し施工する筈なりと

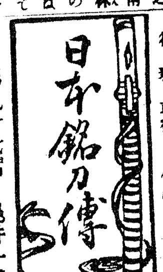
▲建築事務所設置　平壤及附近に於ける建築所々管の工事は既に起工中の控訴院廳舍同官舍及税關廳舍其他近く起工せらるべき鐵道所監獄署等にして之が施行監督の爲め技術者多數出張せるにより其統一上當地に事務所を置くの必要を感じ昨日建築所監督係長岩田技師は鍋垣主事を伴ひ來壤し諸般の設備を終り愈々事務所を陣宮內に設立し建築所技手井口經査氏主任として經營の衝に當ることゝなりたり目下事務所服務中の職員は技手四名雇員二名にして尙工事進捗の狀況に應じ本所より續々赴任する筈なりと

▲平壤炭の品別　平壤鑛業所に於ては平壤炭の品別名稱を第一、第二、第三、第四に類別し居れるが世間にては之を普通炭の謂ゆる塊炭、切込炭、粉炭の別稱なるが如く誤解し居るもの少からず去れど右は品質によりて等級を設けたるものにして即ち第一種炭とは灰分百分の七以下、第二種炭とは同百分の七若しくは十以下、第三種炭とは同百分の十以上十三以下、第四種炭とは同百分の十三以上のものを云ひ從來鑛業所に於て德山煉炭所に納付する該炭は此の四種の炭價を平均して一噸約八圓九十錢位の價格なるが若し第一種が他炭よりも多く採堀せらる場合には勢ひ價格の騰貴を見るべしと云へり

俳句

▲春五句　千寨

駄菓子殺せし床机危なし藤の花
亂れ髪結はひ盥の眠りひま
黄昏かるゝ藤の寺あたり灯りけり
耳口に総は届かず衣更へ
行く春と草徒らに伸びてけり



第九十七席　津田近江之守（一）　邑井一講演

さて當日に相成りますると十三萬兩の金子を箱の儘れ廣間に積上げて、大石大野兩人の指名にて岡島彌惣右衛門、茅野三平の四人が金奉行になつて夫々分配することになつた、前に申上げた如く一同申合はせたる如く御城內へ詰掛けた、廣間正面には十三萬兩のた金を箱の儘山の如くに積上げ其前に大石內藏之助、岡主税座を構へ其左右には大野九郎兵衛、玉虫七郎兵衛、奥野將監を始め、重役の面々、れ目見得以上の侍分着、間椅羅星の如く居並びました、此時內藏之助は先元老であるから、大野九郎兵衛に向ひまして

內「さて大野氏、今般れ家の大變、今更敢言葉すとも返らぬこと、就ては先般御協議を致した通り、常州笠間より此播州赤穗に御國換に相成つた節、先君采女正長友樣の厚き思召に依り拙者の養父大石主殿が繩張致せし名城なればせめて御舍弟大學樣へ半地なりとも、下し置かるゝものか、又は御本家藝州樣より下知是れあるか、此二つのうちなれば、我々も快よく此城をば公儀へ明渡さんなれど、內藏之助が察する所にては、目今の形勢、到底此兩樣とも協ひがたかるべく、唯速かに城明渡し仰付けらるゝに相違ない、されば我々の向背如何にと云ふに、無論城を枕として戰死致すの外はない、夫れ他衣を分つて我に衣せ、食を分つて我に與ふ、他の衣を衣るものは其事に從ひ他の食を食むものは其事に死すとは、これ淮陰侯が千古の名言、就ては今日たゞ蓄の金子を一同の者に配付し、妻子を立退かしむる費用、雇人等に遣はすべき費用、其他萬事の雜用に支拂ひたる殘金を肌付金となし、充分準備致したる上、籠城致す覺悟でござるが、大野氏には如何思召めさるゝや尤も此城を退散致さんとする者は勝手でござる

九「イヤ御城代の言はつしやる所は、最も拙者同感でござる、萬一城受取の勢來らば、白髮頭に兜を頂き、腕に覺の一槍提げ、假令二萬三万の大敵也共大野一人に引受けて御覽に入れんか、夫れは然うと早く肝腎の金を配當して貰ひたい

內「就ては其れ金配當も、高割ではない、無論頭割でござらうな

大「ナニ、頭割とは何事だ、千石は千石、百石は百石と高下のあるものだから、此は無論高割にせんければ不可ん

內「イヤ御尤の仰せなれど、餘の儀ならば格別、斯樣な節に高割に致しては小身者が誠に行立たん、御同樣に大祿を頂戴致して居る者は、平素覺悟もある事故多少の蓄積も致して居るから…

大「イヤ大石氏、夫は不可んと申すに……九郎兵衛頭割は大不承知、拙者は高頭二千石であるから、二千石の割で配當して貰ひたい、貴公は千五百石であるから、夫れに應じて取たまへ

內「夫では少身者が困るから……

大「イヤ困らうが困るまいが拙者の關係したことではございません、少身者は平生から夫丈の祿が少ないのだから樣ござらん、拙者は飽までも頭割は不承知だ」

是を傍で聽いて居つた竹林唯七、面色朱の如くに相成り、自分の座を立つてツカ〳〵つと大野の傍へ來り、ピタリ着座すると、蟷螂のやうな拳固を大野の鼻の先へ突出し、大野の驚くのを見て

竹「元老最前より致して承つて居れば、御城代は頭割にせんければ、小身者が行立たんと、格別の思召しを以て下々を御憐憫なさるのに、最前は何と仰せられた、二萬三萬の同勢を引受けはないか、打死するには其樣なに金が入るか、口先許り大言を吐いて居つて城を枕に快く戰死致すと言はれたで其實配當の金子を掴んで逃げる了簡だらう、此狸老爺奴、左程金子が欲しければ、此十三万兩悉く背負て行け、此奴、今一言高割なぞと吐いて見ろ、藥罐頭を打毀してやるから……」と、勢ひ込んで拳をば當やうと致すのを見て、大野は額ねて眞青になつて居る、內藏之助大聲にて是を制し

內「ア、コレ〳〵竹林、無禮者奴ッ、內匠頭家來は大變に臨んで度を失ひ、重役に對して無禮を働いたと言はれては、冷光院殿の御名前が出るぞ、謹めッ」

大石に言はれりや仕方がない、拳固を袂に入れ、大石を見てニツコと笑つて舊の座に戻る



東京電報

▲兩陛下の御軫念

聖上皇后兩陛下には第六號潜水艇遭難艇長佐久間大尉以下の殉死を御軫念あらせられ弔慰料として金五百圓御下賜あらせられたり(廿日)

▲帝國軍人の典型

佐久間艇長の遺書中陛下の潜水艇を沈め併せて部下を殺したる己の罪を謝したる後沈沒の原因、沈沒後の情況部下の忠實、潜水艇乘員に對する將來の希望を述べ部下の遺族をして窮する事なからしめ給はんことを陛下に希ひたるを感ずるに餘りありと云ふべし(同上)

▲壯烈悲慘なる遺書

第六號潜水艇にて壯烈なる最後を遂げたる佐久間艇長の遺書全文左の如し

陛下の潜水艇を損ひ合せて部下を殺したる己の罪を謝す沈沒の原因はガソリン潜底の際潜入し通報塔のツリープバルクを縮めんとしたるも鎖切斷手にて締めたるも時間遲れ後部に浸水し約廿五度の傾斜にて沈降せり沈沒せるは排電板の浸水せるに依る電燈消へ惡性瓦斯發生し呼吸困難を感じ無煙タンクを排し手働喞筒によりて艇內の排水に力めたるが電流全く使用能はず電池少しく溢るゝも海水入らざる爲めアロリン瓦斯發生せず乘員の衣服濕ひ寒冷を感ずると云ふにあり終りに海軍大臣以下十五名の將官先輩等に對する傳言を敍し十二時三十分呼吸非常に苦しき旨を附記せり

以上の遺書は海軍省に達したる公報に於ては萬死の間に壯烈なる記錄を遺したるは帝國軍人の面目を發揮して餘りありと稱揚せり尙ほ十六名の先輩知己に對する傳言の如きも其期に及んで精神の確實義理の明白一糸紊れざる事歷々として海軍大臣、島村第二艦隊司令長官、藤井軍令部長以下順序整然と列記せり(同上)

▲死して尙ほ餘榮あり

第六號潜水艇乘員に對し左の通り位階追陞の御沙汰ありたり(同上)

敍從六位(特旨追陞) 故海軍大尉 佐久間勉
故海軍中尉 長谷川芳太郎
故機關中尉 平山政太郎
敍正七位(同) 故海軍上等兵曹 門田勸一
故機關兵曹 鈴木新六
敍從七位(同)

▲小村外相の訓示

本日小村外相官邸に於て地方官會議開催外相は外交上に關する一場の訓示演說を爲せり(同上)

▲陸軍操典委員

本日陸軍大將大島久直氏騎兵操典野砲兵操典輜重兵操典改正審査委員長仰せ付られ同時に長岡、大迫、澁谷、秋山の各中將東鄉、松石、關田の各少將及び吉田騎兵大佐外廿八名銓衡委員白石步兵大佐外四名は幹事に仰付らる

▲國母陛下の御還啓

葉山御用邸に御避寒遊ばされたる皇后陛下には廿四日御還啓あらせらるゝ旨仰出さる(同上)

▲午餐會と御陪食

天皇陛下には明二十二日久邇宮北白川宮の兩殿下を宮中千種間の午餐に召させられ同時に德大寺侍從長渡邊宮相中村侍從武官長平田內相一木次官各地方長官に御陪食仰付らるべき旨本日御沙汰ありたり(廿一日)

▲白帝特使の來朝

白耳義皇帝アルバート陛下より即位報告の爲め特派せらるべき使節來る二十九日横濱入港翌三十日入京の旨其の筋へ公電ありたり(廿一日)

▲新聞協會の招待

國際新聞協會にては目下來朝中なる上海東亞ロイド主筆フインク氏を來る二十六日帝國ホテルに招待し午餐會を催す由(同上)

▲法主の歐州巡錫

西本願寺法主は昨年四月印度探檢の途に就き目下亞弗利加地方巡錫中にて其の後英國を經て歐州大陸を横斷して來る七月下旬歸朝の豫定なり(同上)

▲遭難者の追悼會

六號潜水艇遭難者の近々一大追悼會を開かるべし(同上)

▲東京取引所の紛擾

東京米穀取引所重役革新派の紛擾は昨今益々激烈を極め同所重役の一二等中立派と稱して兩者の間に調停策を講ずべし(同上)

▲濠州內閣の動搖

濠州聯邦總會議員選擧の結果兩院共も勞働派の勝利に歸す現內閣は辭職すべし(同上)

▲長沙暴動と損害

我外務省にては長沙に於ける暴動巳に鎭定せるを以て直に橋村漢口領事に訓電を發し該暴動の爲めに被りたる我居留民損害高を調査せしめ瑞總督に對し損害賠償を提出せしむる筈なり

▲憲警增加の決定

韓國派遣の我憲兵及び警察官僅少なる爲居留民の保護行屆かざる憾みあり之を增加せんとするの議は決定したり

▲兩守備隊の更代期

樺太守備隊及北淸駐屯軍は愈よ六月を以て全部更代すべく尙は現在の北淸駐屯軍は第十六師團より派遣せられたるが今回は第四師團より派遣すべし(同)

▲兩法律發布せらる

本日の官報を以て輕便鐵道法及漁業法發布されたり(同上)

北京電報

▲爆彈犯人の自白

前電[illegible]者黄復生は拷問せら[illegible]王を殺害せんとする[illegible]自白せり(二十一日)

▲長沙通信復舊せず

暴動[illegible]れたる長沙郵便局は[illegible]舊せざるを以て其の[illegible]郵便局に於て取扱ひ[illegible]

▲觀光團と清新聞

滿州[illegible]觀光團歡迎に對し清國諸新聞は皆[illegible]し就中北京來官報は[illegible]盛擧として慶賀すと

▲長沙暴動と日英

駐淸[illegible]本日外務部を訪問し[illegible]策に就き交涉する所[illegible]府は此の事變が地方[illegible]れる失態なるを認め[illegible]被害者の所屬及財產[illegible]置の措置を取らん事[illegible]此の種の變を防止す[illegible]中なりと答へたり

雜報

師團將校の謁見

新舊師團交替に就き師團長以下將校に謁見仰付られ來る廿三日午前十一時三十分石塚長官は曾禰統監の代理として帶同參內する由其人名は左の如し

榎永中將、飯島大佐、田中主計正、中川軍醫正、篠崎獸醫正、岩井少佐、園安主計正、柴生田理事、飯塚少佐、芳野少佐、片岡軍醫正、木下少佐、吉田大尉、井原中尉、木越中將、香川少將、日足主計正、五十君大佐、相馬中佐、南少佐、沼田少佐、吉野少佐、安島軍醫正、山之內主計正、森大尉、甲斐中尉

木越中將の敍勳

韓皇には第六師團長木越中將駐韓中に於ける功勞を思召され大勳位に敍し李花大綬章を賜はりたり

●關釜間連絡の改善

昨春露都に於て彼我委員折衝の結果締結せられたる日露船車連絡は既に四月一日より旅客連絡輸送開始の運に至り當時尙諾丁を見ざりし貨物連絡に關しては目下我田中滿鐵理事と露國側委員との間に交涉中なれば追て圓滿に解決を見るべく更に安奉線亦近く完成し鴨綠江架橋工事竣工の曉は南滿韓國兩鐵道の連絡完成すると共に我鐵道幹線は此等の線と連絡して茲に歐亞貫通の大幹線となるべく隨て現在の關釜連絡として充用し來りたる院船壹岐對島丸の外日本郵船會社より借りたる二船のみにては到底完全なる輸送は期し難く急速之が大改善を要すべく鐵道院にては先づ下關海岸に沿ふて長さ三百間の一大岸壁を築き連絡船を横付となす計畫をなしつゝありと

●地方費支辨と產業

本年の地方費支辨による各道の產業事項は左の如し

漢城府	苗木購入費	五百十圓
京畿道	種苗農具購入配付	四千圓
忠南道	米綿種子配付 共有林	三千六十圓
全北道	桑、赤松、網苗購入	四百圓
全南道	[illegible] 松苗購入費	八千八百卅四圓
慶北道	桑苗購入種子蠶種白楊苗費	二千九百七十四圓
黃海道	改良農具種苗購入種牛購入豕飼育	千八百五拾圓
江原道	篤農者獎勵費 蠶種購入	五百九十圓
平南道	養蠶獎勵費 種苗改良	四千四百九十四圓
咸北道	種禽種豕 種苗購入	千四百五十圓
	計	二萬八千百六拾二圓

●漢城府の土木事業

從來漢城府內に於ける土木事業は國庫の經費を以て經營し來りたるが昨年地方費法を制定したると同時に同事業は漢城府の所管となし而して同府は本年度の地方費に約七千圓の土木費を計上し今回國庫より二萬五千圓の補助を仰ぎ近々より府內の道路改修及小破修繕橋梁の架設に着手すべしと云ふ

●韓太子問安使差遣

承寧府侍從長金春熙氏は京城日報社主催の日本觀光團と共に二十日出發渡日したるが同氏は昌德、德壽の兩宮より韓太子問安の爲め差遣されたるものゝ由にて名古屋にて一行と分れ直ちに東上する由因に出發の前日特に勳二等に敍し八卦章を賜はりと

●宮殿落成の慰勞會

百萬圓を投じて德壽宮內に新築中の石造洋式宮殿落成したるを以て閔宮相は勅命を奉じて二十二日午後五時半より石塚長官、小宮、荒井、兪各次官、英國領事及建築工事に關係ある外國人を招待して晚餐會を開く由

●新設日本人會學校

本年度より新に開設する管內日本人會小學校は龍山、永登浦、方魚津、盈德、機張、勿禁の五箇所にして之れに對する統監府よりの補助既に決定したるを以て近々小學校を開始する筈にて目下夫々教員選定中なりと

●韓國元老連の敍勳

十余年間我が國に亡命し先年歸韓したる前內部大臣、兪吉濬、[illegible]義淵、前學部大臣、張[illegible](舊名張博)の三氏は維新の功勞に依り[illegible]院總裁趙[illegible]時に勳一等に敍し太極章を下賜さる

●第二師團の歡迎會

大久保駐韓軍司令官は來る二十四日午後六時より第二師團長松永中將以下將校數十名を花月樓に招待し盛大なる歡迎會開催する由當日は長官其の他重なる勅任官陪賓として列席すべし

●中學生募集の誤傳

統監府中學校に於ては二十名の補缺生徒を募集する由傳ふるものあれども右は何等かの誤りにして中學校にては既に滿員となり一名の補缺もなければ全然募集する如きことなしと云へり

●土地調査方針審議

廿日以來度支部に於ける土地調査會議は同調査に關する根本審議會にして來二十四五日を以て終了さるゝ豫定なり

●大韓每日申報押收

大韓每日申報國漢文千三百六十五號國文八百四十二號は治安妨害の廉に依り二十日其の發賣頒布を禁止されたり

經濟小言

▲日韓合併後總督府は龍山方面に置かるべしとの說あり、若し事實とならんには京城の地主家主に取つて一大打擊たらずんばあらず、聞く此風說に因つて大和町日の出町附近一帶の地價已に低落せりと。何か善後策は無きにや。

▲統監の機密費は一ヶ年二十萬圓なり而かも曾禰統監が就職以來昨年度末迄に使消したる機密金は如何に勘定しても二萬圓を越ゆざるなり、而らば殘餘は如何に成行きしかと云ふに悉皆統監が隨意處分を爲したるなり機密金と統監……曾禰子が辭職を欲せざるも宜なり。

▲我統監府が半官京城日報の爲に其創設以來費消したる金額は實に拾萬圓に達す、而かも同紙は今日に於て拂ふ能はざる萬餘の負債を有す、官業の末路實に悲慘の觀あり。

▲龍山に資本金五十萬圓の紡織會社起らんとす、其詳細は知らざるも兎に角面白き企なり、發起者の顏觸に因つては必ず一般の歡迎を受けん。

▲紡織の業に要するものは原料の綿花と器械と熟練せる職工なり、綿花と器械とは忽ちにして購ふを得べし、熟練せる職工は而らず、企業者此點を研究したりや否。

▲京城は一臺のゴム輪人力車を有せず之れ自ら富の程度を語る、歎ずるに及ばずと云ふは蓋し負け惜みなり。

●岩井氏の送別會

今般宮崎縣に轉任したる警視岩井敬太郎氏の送別會は十九日午后六時より花月樓に於て開かれたるが發起人總代として俵次官及び警視副監具然壽氏の演說あり次で岩井氏挨拶を爲し倉富長官の發聲にて岩井氏の萬歲を三唱して宴を開きたるが來會者百有餘名頗る盛會なりしと云ふ

●理財局の運動會

今回金融組合理事農工銀行支配人手形組合理事等の多數員入京を期とし理財局に於ては來る二十四日景福宮後苑に於て春期大運動會を催さるゝ筈なるが出場者は日韓人を合せ約六七百名の豫定なりと云ふ

●保安課長來任期

保安課長後任宮崎縣事務官亥角仲藏氏は目下東京に於ける警察部長會議に出席中なるが廿一日出發の岩井警視上京を待合せ相互事務の打合を了せし後來任すべしと

●郵便局員運動會

京龍の各郵便局聯合して來る二十四日午前九時より獎忠壇に於て局員の大運動會を催す由なるが當日は執務に差支なき限り交換手及び工夫に至るまで總べて參會すると

●中學職員懇親會

統監府中學校職員一同は廿一日午後七時より京城ホテルに於て懇親會を開き石塚長官を招待する由なるが出席者は廿四五名なりと

●矯風禁酒演說會

廿二日(金曜日)午後七時半より旭町二丁目名古屋城に於て開會「禁酒國」山形甚之助氏「運命と酒害」山口照平氏の演說有り傍聽隨意

●軍隊歡迎會出席

廿三日京城ホテルに於て催さるゝ駐韓軍送迎會に仁川居留民を代表して岩崎民長出席すと

日本漁船の現況

韓國の沿岸に於ける日本漁船の總數は三千七百五十五艘にして人員一萬五千七百四十九人漁獲總高三百餘萬圓なるが重なるものは鰆流網四百三十五艘鰛網二百四十二艘綴網百四十六艘鯖網百六十六艘延繩百四十六艘なりと

●蔚山地方の漁業談

蔚山方面の漁場日韓人紛擾の爲去る十七日出張せる富樫釜山理事廳技手は同地方の漁狀に就て左の如く語る

▲方魚津を根據とせる鰆流網漁業者は既に大抵同地方を引上げ春漁に移り全羅南道の北山を根據として同地方に赴き現に十八日には香川縣遠洋漁業會社の小富士丸と云ふ母船は漁船四十隻を引きて北山へ向ひ十九日には岡讃共同組の母船凌波丸は三十五隻の漁船を引き是れ亦北山に向へり殊に二十日は順風の事とて北山に向ふ者多かりし

▲昨年秋期より本年の冬までの方魚津の鰆漁の水上成績は流網漁船の出漁數は約四百四五十隻にて一隻平均千圓に上りしやにて其內割合に多きは三千圓に上りし者四五隻あり亦金高の上りしは二月の四日に岡山縣日生の船にて七百三十尾を得、一尾一圓五錢、去る七日には香川縣獅子山の船にて九百七十尾一尾は七十五錢六厘、九日香川縣佐柳の船は千七十尾一尾七十八錢に相當し數に於ては千七十尾が本年に於ける大漁にて漁獲は前年に比し本年は册數少なかりしも其魚は多額に上りし方にて前年より少なからぬ相當の利益あり

▲魚類運搬者の方法は內地營業者が依賴と冷藏輸送に熟練せし爲め內地にても魚價高下少なきやう奮勵せられ大に便益を感じ居れりと云ふ

●仁川民團種痘日割

仁川民團にて廿一日より春季種痘を開始せしが生後六十日を經過せし者又たは前回接種の際不善感の者及び接種後三年を經過したる者は漏なく接種せらるべく其日取は廿一日より廿二日迄午後二時より四時迄小學校にて廿五廿六の兩日同時刻民役所にて同廿七日は萬石町八景園にて種痘せらるゝ筈にて尙は廿三日より同卅日迄午前中に限り最寄の醫師に於て無料接種するを

●岡正矣氏の送別會

鐵道廳の岡正矣氏今般東京へ轉任に就ては平素交際多き同氏のことゝて惜別の宴を催す者多く今其の日割を擧れば左の如し因に記す後任三本氏は來る二十五日着任に付き夫れより事務の引繼を爲し來月一日出發赴任の豫定なりと

二十一日三井物產、二十二日龍山民團及有志者、二十三日第一銀行、二十四日大久保大將晚餐會、二十五日三浦理事官同上、二十六日經濟協會、二十七日愛媛縣人及有志者

●日韓電氣擴張工事

日韓瓦斯電氣會社の發電所は從來東大門及麻浦の二箇所なりしが東大門の發電所は石炭其他の運搬等に不便尠なからざるを以て今回麻浦發電所を擴張して新機械を据附け東大門發電所は廢止するに決し既に麻浦發電所は增築基礎工事に着手したるが將來は漢江の水流を利用し水力電氣に變更する方針也と

●韓海移住漁業者數

韓國の沿岸に於ける日本の移住漁業者總數に付き最近の調査を聞くに戶數合計一千百四十六戶、人口四千九百七十三人にして最も多き所は絕影島戶數二百二十七戶、人口八百六十二人、方魚津戶數百三十五戶、人口五百五十八人、長承浦戶數百二十戶人口四百八人等なり

●經濟協會例會開催

昨年末休會中なりし韓國經濟協會にては來る二十六日火曜日午後六時より京城ホテルに於て石川石代、岡正矣兩氏の送別會を兼ね久々にて例會を開く由尙ほ當日は會員外の人にても石川、岡氏の知人は出席差支なし參會希望者は廿五日迄に京城ホテルに申込べしと

●土屋測量部長着期

臨時土地測量部長土屋大佐は來月廿二日東京出發來任の筈なりしも後任者の都合により多少延引さるゝやも測られざれど遲く共本月內には最非共入韓の筈

●谷田司令官の通過

憲兵分隊を巡視中なる憲兵司令官谷田中將は二十二日朝水原出發午前八時十分當地を通過して直ちに平壤へ向ふ筈

●韓銀出張所の移轉

韓國銀行にては今回咸北鏡城の同銀行出張所を羅南に移すことゝなり羅南にては五月一日より營業を開始すべしと

●韓銀の支店長會議

韓國銀行にては來月十日より全國各支店長を召集し支店長會議を開くべしと

●仁川居留民會開催

仁川民會を廿五日午後七時より開き助役招聘の件其他數件に就き審議する筈

●榊原憲兵隊長出張

憲兵隊長榊原少將は別項谷田司令官を南大門に出迎して平壤へ同道すべしと

●小川事務官歸任

共進會事務を帶び久しく福岡名古屋の兩地に在りし農商工部小川事務官は廿日夜歸任したり

●井上主任の上京

日韓電通主任井上藤三郎氏は社務を帶びて廿一日上京

公人私人

▲川上新太郎(內部囑託醫)廿日釜山へ
▲大友次郎(步兵少尉)廿日入京巴城館
▲中野孝一郎(同 大尉)同上
▲相生幹(同 中尉)同上
▲宮川總三郎(大阪セメント會社技師)二十日入京佐藤旅館に投宿
▲吉田雅一(龍巖浦居留民總代)二十日入京不知火旅館に投宿

▲治外法權▼

韓人を虐待す可かずと云ふ事を昨日の本欄に書いたら下の樣な投書があつた、主人公の名前は暫く預るが當地の某紳士が此程京釜線の普通列車に乘つて地方へ旅行した無論普通列車の事だから上等列車はない止む無く韓人追込みの三等列車の一隅に陣取つた、處が某驛に於て一寸外出し元の座に歸つて見ると白衣の韓人が席を占領して居る、併し荷物の置いてある關係上ドウしても其席が必要だから從者に命じ朝鮮語を以て立除きを申込みたるも件の韓人更に應じない茲に於て氣早の從者はタツワと怒りプンなぐらふと爲たら白衣男曰く貴樣は俺を韓人と思ふかと▲從者は日韓合邦近づきたる今日の事とてワザと否日本人と思ふされはこそ禮を重んぜよと云ふのだと、答へしも白衣男更に動かず、最早從者は堪へ切れず今一人同行の某と兩人して擧骨を見舞つて漸く立除かした處が豈に計らんや白衣男は田舍に住む異の日本人が韓服を着けて居た者であつた爲め紳士は非常に氣の毒に感じたと云ふ事である▲鐵道院官房へ轉任になつた岡正矣氏の送別會一覽表を見て其多きに驚いた、以て氏が在韓中如何に多方面に交際して居たかゞ判かる、若し假りに大屋長官の轉任であつたとしたら恐らく其半分もあるまい▲春雨霏々として降る庭前の桃花漸く散つて南山の綠葉夕日に輝く而かも統監旗の翻るを見る能はず。



名妓洗髪のれ妻(三)

▽羽左衛門は一生忘れぬ
▽俳優買の初は今の團藏

心の心は自分にも分らず其日〳〵の稼業となれば藝者のするやうな事は一通りはしましたね可笑いやうですがね桝田屋さんのれ古は私が大抵引受けた西鄕從道さんなんかは其れ一人ですよ、然しれ客樣の事なんかは止しませうよ▲夫れでよく人が云ひますね、死ぬやうに辛いと、然しね私は考へました古い昔の事を思ふと今まで御話申上げたやうに私のやうな不運なものは無いと、つく〳〵考へると死に度くもなりますが、察して下さい、死ぬに死なれぬ私の身の上、伊藤の御前が仰しやつたやうに人間は死際が肝腎私は死場所を探してゐると云たやうな形、死ぬやうな辛い處は既の昔に通り越しちやつた、其んな事を考へると實に人間が厭になるので、ツイれ酒も飲む仕たい眞似もしますがね、それに長い間の此の浮いた稼業ですもの、父土岐守道が血潮はもう〳〵無くなつて了つたれつぎの殘骸ですわ、あゝ厭になつたね▲折角昔を忘れてゐた從蔭い昔語が緣の端私しあ思出した、さあ斯うなると立つても居てもゐられないのですわ、グイと斯う冷つこいコップ酒、御免なさい、自分の半生を話すのですわ、昔語りで心が縺れた絲のやうに亂れに亂れました、順序は立たないといふも自分でも分らぬ位、並普通の人間が踏む幾世の夢を見た私ア解すに難い話の緒口です、此れからの話は月日が前後滅茶でせうが、思出たまゝの昔語をするわ▲夫にしても今に思出すのは若旦那市村羽左衛門――當時の家橘ですね、あの男ばかりは忘れませぬ其紋處は渦卷の卷いても〳〵終が知れませんよ、オホヽヽ、コップ酒の醉が云はすた惚氣よ勘忍して聞いて下さいな▲抑も私が役者といふものを買つて見た最初、それこそいの一番は市川九藏今の爺さんの團藏です、二十六年でしたか、桝田屋へ九藏が來て出來たのですが、其頃九藏は森木座で團助(今の芝翫)などと一座で確か鬼薊清吉を演てましたよ、私は九藏とは夫婦約束までした、九藏はそれで神田鍋町に家を新築して私に住ふ積りの處ろが落籍間際に其家で乞食か何か首吊があつて九藏さんも延喜が惡いと酷く氣にかけて其の家へは入りませんでした、九藏最負の或るれ客が日本人で日本に見られない程不縹緻な人形をと物好にも誂らへて九藏さんにやつたのですが其人形は前齒が缺けてゐて不縹緻さが著く出來てました、それで額を叩く舌を出すのですが九藏さんは其れを命から二番目に大切にしてましたが私が與れと云つたら直ぐ與れました程私には惚てゐたし、私も役者が初めですから可なり熱くなつてゐましたわ、其れだけで何時とはなしに仲が違うし〳〵しくなつて當時去る若手の買出しの役者に私の心はツイ移つて了ひましたが抑も、それは誰れだと思召す？マア好い加減に考へて頂戴な妾ア最早醉つ拂ひよ後生だから又の日にして下さいよヨウたらヨウ、オホホ、、、

れ客は短銃强盜

▽短銃を强奪して脅迫し
▽龍山方面に向ひ逃走す

二十日午後十一時頃南大門通り藤木雜貨店に年の頃二十一位の書生体の男入來り寢仕度に忙はしき店員を捉へ自分は是より深く內地を視察せんとする者なるが就ては暴徒の危險もありと云へば自衛の爲めピストル一挺買ひ求め度ければ面倒ながら見せて與れよとの事に店員は委細承知好き客御座んなれと上等に彈丸六十發を添へ差出したるを手に取り上げし同人は兎に角調子を試みたしと幾度かを頑裝し氣に入つた〳〵と繰り返し居たるが突然其筒先を店員に差し向け金を出せ拒まば擊ち殺さんと居直りたるに店員一同は余りの事に聲も出ぬ迄に周章狼狽しマゴ〳〵せる隙を覘ひ件の男は彼の短銃及び彈丸を引つ浚ひ南山方面に遁走したるより遽に强くなつた店員も電話にて其の旨西部署に急訴したるより同署にては直樣犯人搜索に着手したるも遂に逮捕し能はざりしと因みに犯人は南山麓より仲の新地を橫切り龍山方面へ逸走したるものゝ如しと物騷千萬の事共哉

●子は三界の首枷　京畿道龍仁郡上東面泉洞居乘樽商金晩照(五六)は明治四十一年五月頃同郡同面德泉里住鄭獻年の女を自分の長男敬權の妻に貰ひ受くる約束をなし既に結納迄取交はし居たるに如何なる都合にや獻年は破約を申入れたるより晩照は茲に惡計を案じ同面泉洞住池在天を語らひ獻年の婚姻契約證を僞造せしめ之れを携へ知人十數名と共に昨四十二年十二月廿五日獻年方に至り其の履行を迫り應ぜざるを見るや矢庭に同人を縛り上げ其の女を强奪したる廉により爾來當地方裁判所に於て審理中の處遂に去る二十日十箇月の懲役に處す旨申渡されたりと云ふ



女振り

佐藤牧商店內儀　佐藤りき子

りき子君が上つ張衣姿で朝も暗い內から店員に立ち交つて之れを督勵し、繁雜し來客との應接は素より取引先きとの駈引きに至る迄悉く身一つに引受けて縱橫無盡に切つて回はさるゝ內儀振りは今は泥魂に隱れもない事實である、牧太郎君に向つて何か取引上の話をすると『今一寸妻が居ないから』と拔ける、が夫れで先方が承知する所を見ても如何にりき子の手腕の凡ならざるものあるかは知れるであらふ、然るに此所に一つの不思議は此の傑物の統卒するにも拘はらず店員の交代の多いことである、而して其の交代する每に少なからず帳尻に缺損を見ることである、上手の手から水が漏るのだと云ふ人もある、女賢うして牛賣り損ふとは夫れだと云ふ人もある、が女振り子は左樣とは信せないのである、牧太郎君は大分縣臼杵の產である、臼杵と云へば二百戶にも足らぬ小部落であるのに多額納稅者が三人もあると云ふ富裕の土地である、臼杵の者には飯を見せるなどとは大分縣ノ俚諺で內儀りき君も又此の地方の出である、牧太郎君には先妻の遺子でれかよさんと言ふ怜悧な今年十八になる娘がある、利かぬ氣のりき子君には此の溫和しいれかよさんの娘振りが氣に入らぬらしいが果して然らば一家の不幸である、本年三十五、大數まさ子君の姪である。

●洗張屋の惡番頭　大和町二丁目久代洗濯屋雇人伊藤重治(三二)は洗濯物及洗張の注文取りに從事中四十二年十二月頃龍山八景園の藝妓小金より御召女袷一枚(代廿七圓)の洗張り注文を受け之を北米倉町野田賀店に入質十三圓を得て其のまゝ流質となり龍山鐵道管理局官舍守瀬菜の洋服一着(代六圓)を仕立替へを托せられ同野田賀店に三圓五十錢に入質其の他數ヶ所に於て右の手段を以て惡事を働きたる事南部署刑事に探知せられ同署にて取調の上檢事局に送らる

●損害賠償金五錢　西部皇華坊貞洞群與清國人禹品福(三六)は養生坊大平洞五十二統七戶自轉車修繕業李忠元(三〇)に自轉車のゴム輪修繕を頼み二十日午後六時頃受取りに行きたるに以前頼みたる部分は出來居るも他の一ヶ所に破損を生じ居たるより口論を起し爭鬪の折りゴム輪を二ヶ所切斷せしより淸人は西部署に損害の訴を提出せしより同署巡査は淸國巡邏廳に出張を乞ひ双方示談の上李忠元より五錢の損害を出さしめ說諭の上放還

●憲兵の驅落轉勤　江原道竹邊分遣所詰三浦憲兵上等兵は竹邊港回漕店兼雜貨商仲太郎長女矢野みどり(一九)なるものと兼ねて慇懃を通し居たるが本月十日頃轉勤の命に接したるを好きことにして右みどりを引張り出し駈落兼轉勤と出掛けたるがみどりには先夫の子にして去年生れたる乳呑兒のあることなれば同人家出後は老母のれ何は乳呑兒を抱へ漸くミルクにて哺育し居るが哀れなりと釜山坂の下の大野生よりの通信のまゝを御披露申す

●摸造紙幣行使者　仁川京町二丁目米商片岡理三郎と云ふが一昨日の午後七時頃京町派出所に出頭して訴出でし處に依れば先日自分宅にて萬龍の寫眞入十圓の模造紙幣を使用せんとし韓人只今拙宅の前を通行せりとの事に直に警官は新昌洞方面に追跡せしも遂に蹤跡を失ひたるが其際件の韓人が避病院下に袋入大根葱等を委棄しありしを發見殘念の百萬遍を唱へて引揚しと

●韓人の姦通騷ぎ　仁川內洞居住の李建燮妻尹氏(三三)と云ふは夫の眼を窃みて同居人なる趙景弘(三六)と情を通じ知らぬは亭主ばかりの不義の快樂に耽りつゝありしが一昨日の午後九時頃右姦夫姦婦が密會中本夫に其れと悟られ散々毆打されしのみならず姦夫所有に係る箱を破毀したりとて其筋に訴へ出でしかば目下双方に就き取調中なり

●袴の裾より火事　廿日五時二十分頃盤松坊亭洞四十八統十戶金弘楨の姉梁姓女(二九)は炊事中袴の裾に火の付たるを知らずして內房に入んとする際臺所に積みありし枯槇葉に燃へ付き更に屋根に傳り將に大事に至らんとせる際西部署巡査及昌德宮德壽宮の消防手時を移さず驅け付け消し止めたりとは振つた火事かな

●多數韓人の暴行　京城憲兵分隊管內陽智分遣所の東方三里利川街道路工事中なるが十八日午後六時頃韓人約百名許り同所滯在の工事受負人たる靑木某方へ押寄せ來り暴行を働き雇人二人に重傷を負せたるが原因は人夫に使役せぬとてなりとか主謀者三名は目下引致取調べ中

●外人の時計遺失　米國人ルーテル、サツク氏は二十日午前十一時東部蓮花坊蓮池洞なる自宅より長老教會堂に至る迄の間に於て金側三枚蓋十八形金時計一個(價格百圓)を遺失したる旨東部署に屆け出でたりと云ふ

●仁川の淸潔法　仁川警察署に於ては追々惡疫流行の季節に入らんとするを以て先づ來月早々市內の大淸潔法を執行せらるゝ筈なりと云ふ

赤穗義士(三)

佐々木信綱作歌　田村虎藏作曲

(十)良雄今はと秘めゐたる
胸の大事を打明けぬ
年來受けたる君恩は
山の重さも何ならず

(十一)一と度死すと決したる
命をしばし長らへて
かの上野が首級をば
受けて死なんも遲からじ

(十二)雲を排いて天日の
光はじめて見る心地
誰かはひとりいなむべき
堅き盟ぞ成りにける

(十三)明け渡したる赤穗城
顧み勝に出て行く
義士の心を忍ぶれば
悲しくも亦勇ましき

●三生流活花大會　來る二十三、二十四の兩日南山本願寺に於て同流教授橫井先生門下才媛淑女によりてはなしいゝ、づめの會を開催せらると桃李の艷容、柳絮の嬌態、櫻菊の淸高、菜花の野趣、麥穗の寂悉く之れを一堂に味ふを得べければ定めて盛會なるべし『のどかなる春の祭のはなしづめ風をさまれとなほ祈るらし』

目と耳

▲壽座の蓋明け　既報の如く女優中村歌子一座は二十日夜壽座に乘込み廿一日初日開演なしたるが前景氣頗る宜し廿二日の藝題は廿一日と同じ尚ほ同座は藝數を多數に演ずるを以て午後四時開演し四時より五時迄の間に入場したる向へは木戶錢を半減する由

▲京城座　同座二十二日替り狂言は『浪の寄邊』にして配役左の如し

醫生石田(川崎)安田貞三(桂木)下女かるべ、下女れ玉(田中)藪波母もと(高山)春日俊三(高島)醉漢、大學生木村(關)藪波唯一(浮田)事業家高木健一郎(中澤)安田信之妻れむら(眞部)安田娘さよ子 小西)藪波妹種子(三好)安田信之(瀨川)

▲歌舞伎座　二十二日夜の語り物如左
叠山九(〇〇)阿波鳴門八、若松　合邦辻下(さくら)加賀見山七長局　玉司　伊賀越沼津(與駒)れ染久松野崎村(清太夫)岸姬松三(越尾太夫)

今日の運勢

四月廿二日舊三月十三日●碧友引丁巳除△一白●勞して後效ある日なり創設開始の事見込あり金屬に關する業務には尤も吉△二黑●諸事間違と紛擾起り易し又過失什寶を毀損の恐れあり△三碧●猜疑誹謗の難あらん旅行新事婚姻共同其他團体結成凶△四綠●競爭及妨害多き日なり色情痴情の破れを戒しむ△五黃●盜害爭論起り易し建築動土には吉△六白●障礙多し新事申合せの事旅行轉住凶△七赤●不如意の事多く新事見合せの事建築農業には吉△八白●徒勞多し金談取引相談調停等效なし△九紫●願進の日なり大抵吉入學門創業開店披露旅行舟下し命名に尤も妙(本町五丁目丁三一館判斷)

▲訂正　二十日本紙三面欄に法學士の無錢飮食と題し揭載る記事中永井辯護士事務員と記したるも右は事務員にてはなく寄食者にして尚ほ本人當夜は非常に酩酊し居たることとて懷中の有無に頓着せず酒食したるものなるも素より惡意ありての所爲に非ず羽織は一旦提供したるも後ち店主の同意を得て持參歸宅翌日に至りて代金を支拂ひ事濟みたるものゝ由なれば右相違の點を訂正す

●天氣豫報(自廿一日午後六時 至廿二日午後六時)
北東風曇少雨後晴
二十日(華氏)　最高溫度 七一、八　最低溫度 四八、九

美術半襟帯締其他紙類各種
京城明治町一丁目 電話一千四百〇九
ゑり徳商店

廣告

◀日本の二大賣薬▶
全國各藥店にあり



代理店
京城南大門通三丁目
新井藥房
電話九百四番 千六十八番
振替口座韓國十六番

廣告

韓國産 新炭柴
右今般左記之處に於て營業場を設け大勉強安直專心販賣可仕候間陸續御注文之程希候也
京城西大門外電車通り
西部盤松坊橋政承契阿峴洞
新炭柴問屋 高芝惣太

各位

木材賣却廣告
一鴨緑江松材現木
長サ八尺五寸以上二間半
一尺五寸角以上三尺迄
右木材多數所有致し居候に付特別安價に賣却仕候間御望の方は御來談被下度願上候
京城旭町三丁目
建築業 柴田之六
電話五百六十八番

●●●滋養と牛乳●●●
純良 牛乳
京城東四軒町
岡野牧場
電話壹〇六九番
●●●衛生と消毒●●●
馬車配達

入院随意
内科外科
小兒病
梅毒淋病
京城壽町三丁目
高井醫院
電話(二一六)
院長陸軍軍醫正 高井貞治



値上廣告
韓語大成
一部一圓八十錢
郵送料十五錢
從來一部一圓五十錢の處今回紙數百余頁を加へ改正増補致候間前記の通り値上候也
京城本町五丁目
釘本藤次郎本店
長電話四五番
振替貯金口座韓國二五六番

紙と印刷
諸紙
和洋帳簿
印刷
各種製本
諸官衙御用
ハリモト
播本商店
京城本町六丁目
電話百拾番

諸荒物世帯道具一切
其他和洋蠟燭
アサヒ サッポロ ビール
精白米
右大勉強仕候に付陸續御用命仰付られ度伏奉願上候
京城本町六丁目
日用雜貨 御問屋
西崎嘉七本店
電話二一〇電略(ニカ)
振替貯金口座韓七番

金魚各種
卸小賣
龍山山下町一丁目(兵器支廠官舍入口)
陸軍御用達 馬木勇吉本店
電話三六四番
京城本町五丁目一番戸角
茶器商 馬木勇吉支店
電話四七一番

旅館
京城南山町三丁目
京城ホテル
電話長一二三番 四九一番
日本室和食
特等(壹圓五十錢)
一等(三圓)
二等(二圓五十錢)
三等(壹圓八十錢)
(壹圓六十錢)
(壹圓五十錢)

名物しる道樂
御料理
松たけめし 一人前三十錢
あなご竹の子めし たなしく
鶏ゑんどうめし たなむく
豫てたなじみの大阪美人、御光來の程を待ちかねて居りますから、御賞味を賜はりたう、御は多少によらず出前も仕ります、與々も御用命伏して御願申上げます
大和町三丁目
梅の家眞向ひ
電話七三五番
明月

齒科治療
本町六丁目
ドクトル 中村安子
(敷そば横町)電話一五八三番

米 東京火災海上運送保險株式會社
明治廿年七月創立
資本金一千萬圓
京城代辨店 本町四 山口呉服店 電話九番
事務所 京城南大門通二 電話一〇六〇番

會席御料理
品川樓
北米倉町 電話千六百二十四番
各位の御引立に依り日々繁昌仕候段誠に難有奉存候就ては聊か御愛顧に酬ゆるの方法として今般東京淺草ロックにて有名なる岩審しの名人を板場に雇入れ候に付き花見御遊山等の御審し御辨當は至極御手輕にて精々相働き候間何卒御用仰せ付け被下度願上候

産婆開業廣告
見習生を募集す
年齢十六歳以上にして高等小學卒業以上の學力又は同等の學力あるもの本人直接來談
京城旭町二丁目百四十五番戸
内務省免許産婆
村松たけ

諸官衙御用品調達
營業科目
和洋紙類
印刷附屬品
印刷インキ
和洋書籍
防腐デシン
穀物食鹽
諸染料類
要記取賣
東京ランバード商會代理店
東京中外アスファルト株式會社代理店
東京千代田生命保險相互會社代理店
東京博文館發行書籍特約店
東京金港堂發行書籍特約店
山陽堂合資會社食鹽特約
藤田合名會社
本社 京城明治町二丁目(電話二三〇番)
出張所 東京十番地、京城新橋電三六、南鍋町一丁目二九

京城明治町二丁目(佛國教會前)
辯護士
特許辯理士
岩田仙宗
電話三五四番

時節柄敷物及夜具等新調仕り室内の設備も相整申候
御客様に對しては叮嚀親切を旨とし調理の義は從來よりも一層勉強可仕候間倍舊の御引立奉願候
京城南山町四丁目
原金旅館
(電話一一一五番)

資本金 一千萬圓
積立金 五百四十萬圓
株式會社 第一銀行京城支店
電話一一番 六一二番
銀行一般の業務は確實を旨とし精々御便利に取扱申候
本店 東京市日本橋區兜町
支店及出張所 大坂、京都、横濱、神戸、名古屋、四日市、下關、新大坂町(東京)、兵庫、伏見、西區(大阪)、釜山、
其他日本韓國各地並に海外樞要の場所に爲替取引先有之候

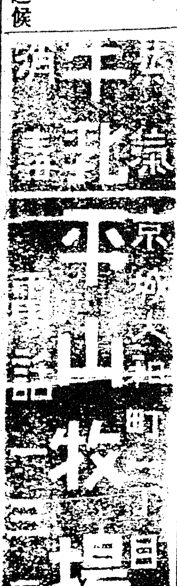
開業御披露
今般左記の處に開業致し粋樣方の御來車を待申候
京城本町八丁目横入初音町
待合貸席 松廼家
電話千三百九番

特約販賣自製
味噌醬油製造元
漬物問屋
京城本町五丁目
大上商店
支那白菜漬
朝鮮菜葉漬 大賣出し
(電話二五一番)

御紋上繪、染物、洗張、西洋洗濯
ものし、しみぬき、かけつぎ
京染悉皆取扱
葉書にて御一報被下候へば早速店員罷出精々御便宜に御取扱可申候
京城古市町
京屋
主任 島田嘉吉

●京城市内の御注文は遠近に不拘早速持參可仕候●
概略營業品目
和洋帳簿諸紙類
文房具學校用品
卷紙封筒手帳類
帽子洋傘クッ鞄
洋服附屬品一式
メリヤス類一式
毛布膝掛馬車掛
石鹸香水齒磨類
タオル、ハンカチフ
手袋沓下袋物類
正札 一 引なし
官衙、陸軍 銀行、會社 御用達
京城本町四丁目
池田長兵衛
電話二百〇六番
和洋雜貨 御小賣商
●地方よりの御注文は代金引換小包にて發送仕候●

論より證據
來て見りやわかる
京城壽町二丁目
食道樂
電話九四四番



★株式會社 百三十銀行 韓國京城支店
京城本町二丁目十五番地
電話五十八番
資本金五百萬圓
頭取 安田善三郎
爲替取組先
畿内 大阪、京都、西陣、伏見、奈良、山、八木、高田、田原本、堺、貝塚、岸和田、御影、兵庫、神戸、平野、住吉、茨木、下市
東海道 東京、横濱、大磯、甲府、静岡、名古屋、四日市、熱田、四日市、津、山田、桑名、松阪、
東山道 彦根、八幡、大津、長濱、大垣、岐阜、前橋、伊勢崎、宇都宮、福島、若松、青森、秋田、能代、土崎、高崎
北陸道 小濱、福井、敦賀、諏訪、金澤、
山陰道 大聖寺、富山、伏木、新潟、宮津、舞鶴、新舞鶴、鳥取、
山陽道 米子、境、松江、久手、大田、龍野、姫路、西大寺、岡山、高梁、玉島、福山、府中、尾の道、三原、廣島、岩國、山口、柳井、平生、下關、長府、徳山、小郡、府中、岩見、岡山、牛窓、
南海道 串本、御坊、田邊、新宮、和歌山、尾鷲、州本、撫養、徳島、善通寺、丸龜、高松、八幡濱、川之石、宇和島、今治、西條、松山、三津ヶ濱、
西海道 直方、飯塚、博多、福岡、若松、久留米、若津、中津、小倉、門司、行橋、後藤寺、佐伯、別府、大分、伊萬里、牛津、長崎、佐賀、熊本、宮崎、鹿兒島、八幡、長洲、
北海道 函館、小樽、札幌、
台灣 臺北、臺南、
清韓國 仁川、釜山、元山、鎭南浦、平壤、木浦、羅州、大邱、群山、安東縣、營口、奉天、牛莊、
銀行一般の業務精々便利取扱可申候

仁川港
釀造元 三巳醬油釀造場
電話七番
最上醬油
●京城本町壹丁目
發賣元 三巳酒店
電話七五三番
●龍山本町三丁目
發賣元 三巳酒店支店
電話五六四番

株式會社 十八銀行 京城支店
京城南大門通
(電話四二〇)
資本金 參百萬圓
積立及繰越金 九拾五萬圓
銀行一般業務精々御便利に取扱可申候

本店 長崎市築町
支店 京城、龍山、仁川、木浦、釜山、元山、羅州、群山
出張所 大阪、熊本、佐世保、嚴原、五島、壹岐
韓國 日本
其他日本、韓國樞要地、及露領浦鹽に爲替取引先あり
貯蓄預金 一口壹錢以上何程にても御預り申候(利息日歩壹錢二厘)
長崎貯蓄銀行代理店
(十八銀行京城支店)